

金沢区最後のフロンティア

米軍貯油施設の跡地利用は、

金沢区民・横浜市民のために…

黒川
くろかわ
勝 まさる

ともな
どづな
第8号

発行所
黒川まさる
政務調査事務所
TEL045-781-9580 FAX045-786-4310



★初めての特別委員会に

平成十七年の十二月に米軍から返還された、金沢区柴町の旧小柴米軍貯油施設は、現在都市公園「開港150周年の森」として整備をすすめるべく準備が進められています。私は、横浜市会議員に当選して最初の特別委員会の配属に「基地対策特別委員会」を選び、金沢区にとって最後に残された広大な緑の地域ともいえる、貯油施設の跡地を今後どのように整備していくべきか、特別委員会や市役所の担当者とともに議論を重ねてまいりました。

★なかなか先に進まない

米軍から防衛省へ、そして財務省の国有財産として横浜市に払い下げられるというのがおおまかな筋書きです。現地には29基の地下タンクと5つの地上タンク、張り巡らされた配管類といくつかの建造物があり、撤去費用を負担するのは誰なのか、といった問題の結論



金沢地区センターにてディスカッションの風景

が出ていません。53ヘクタールの広大な土地はほとんどが国有地ですが、2パーセントは民間の土地があり、1パーセントは横浜市も所有しています。横浜市では平成18年に市民意見の募集を行って返還跡地利用指針を策定し、翌19年にも市民意見募集を行い返還跡地利用行動計画を作り、今年もまた「小柴貯油施設跡地利用基本計画」を策定するとともに5月から6月にかけて行われた3回目の市民意見募集を経ていよいよ公園の実施計画が策定されます。その後は財務省から国有地の処分方針が出され、都市計画の手続きを経て、設計・工事が行われていくことになっていきます。

現在は、国の予算で土壌汚染の調査が行われており、来年は開港150周年の記念植樹が市民の手で行われる予定になっています。議会や委員会の場や、様々な会合の中で、いろいろな角度から質問をしましたが、国を相手にした交渉はなかなか先に進まず、断片的な情報しか入ってきません。そんななか、突然記者発表が行われたりして、こつこつと交渉ごとの難しさを実感しました。民有地の地権者にとっては行政の方針が決定されなければ何も活用できず負担だけがのしかかるという死活問題でもあります。今になって思えば、横浜市としても手探りながら、市民意見の募集や150周年の植樹の計画などを打ち出して防衛省や財務省にプレッシャーをかけていたのかもしれない。

★若い仲間たちとともに

なかなか先が見えないのに、150周年はもう来年です。基地対策特別委

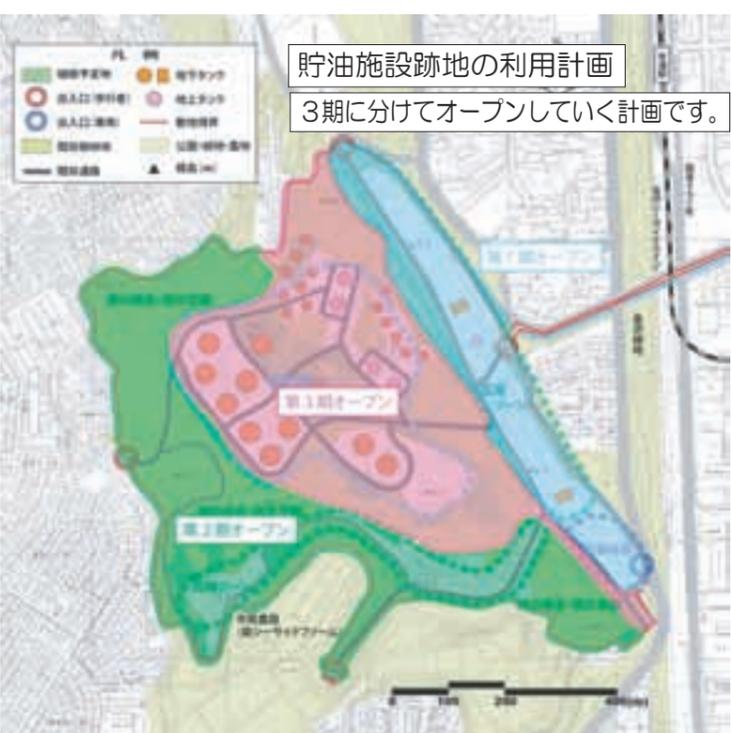
員会の任期が今年の5月いっぱいまでの中、最後に何か出来ることはないかと、私は「黒川まさる青年のつどい」の実行委員会の仲間とともに5月14日に金沢地区センターで「小柴貯油施設の跡地問題を考える」グループディスカッションを行いました。

集まってくれた40人の区民のみなさんを5つのグループに分けてKJ法というディスカッションの手法を使ってそれぞれに小柴の貯油施設跡地の利用について議論してもらいました。最後に各グループから発表をしてもらいました。みなさんからは興味深い意見やアイデアを出してもらったことが出ました。これを持って私は横浜市の基地対策課を訪問し、区民からのナマの意見として行政に提出しました。

★市民の力で行政を動かそう

その後、6月6日には横浜市の基地対策課が企画した貯油施設の見学会にも、グループディスカッションに出席した9人の仲間が参加してくれました。見学会の後も場所を移して議論は続き、やはり金沢区民の大切な財産なのだから区民の意見をしっかりと吸い上げて計画を推進して欲しい、私たちの子供の世代にキチンと自然環境を残して引き継ぐことは私たち大人の大切な責務だという意見でした。

区民の人たちの考えや本音は、意見募集のアンケートにはがきの返信だけでは掴めるものではありません。世代や職業や地域などの垣根を越えて様々な形で議論を重ねていく中から多くの意見を集約していくことが大切です。



グループディスカッションや現地の見学会を通じて生まれたアイデアは貴重な区民の意見として、しっかりと行政の施策に反映されるべきです。未来の子供たちに感謝してもらえよう。素晴らしい公園の完成を目指して、今後も強い関心を持って取り組んでまいります。

＜グループディスカッションでのユニークなアイデア＞

◎スポーツ系◎

フィールドアスレチック・フリークライミング
サイクリングコース・クロスカントリーコース
アメフト・ラグビー・サッカーなどのグラウンド

教育文化施設

地下タンクを利用したコンサートホールや映画館・美術館
明治から昭和・平成の近現代史を学ぶ資料館
宿泊、工作、農業など子供たちの自然体験学習施設

☆農業体験系☆

イモ掘り・みかん狩り・花摘みなどの収穫体験
竹林での筍掘り・竹炭作り・竹細工の工芸体験
牧場・市民菜園・DASH村のような自給自足施設

★商業施設系★

森の中のアウトレットモール・道の駅のような金沢区の産直品の即売所・タンクを利用したレンタルスペース

アフリカ開発会議の開催で 横浜が得たものとは



5月28日から30日まで、みなとみらいの国際会議場を中心に、「第5回アフリカ開発会議」が開催されました。同時に「第一回野口英世アフリカ賞」の受賞式も行われ、5月の横浜はアフリカ一色に盛り上がりました。

会議の成果については、新聞やテレビで大きく取り上げられたので割愛しますが、同じ時期にサミットの関連で環境会議や経済会議が全国の各都市で行われていたのと比べても横浜は大きな存在感を出せていたと思います。

ひとつの小学校がアフリカのある国のことを学び、その国の人から話を聞き、交流をする「一国一校運動」や、市営地下鉄の各駅で行った「一駅一国運動」は市民のアフリカに対する関心を高めました。私も六浦小学校とリベリア共和国の橋渡しにちよっぴり協力することができました。

赤レンガ倉庫でNGOや、各国の大使館、関連企業などが集まって開催されたイベントも多くの市民を集めていましたし、長浜ホールでの高校生のミュージカル「やし酒飲み」は物語よりも楽器のリズムや派手な舞台衣装などが楽しくて、アフリ



からしい雰囲気が出ていました。

また、昨年の6月に私がこの「ともづな」紙上で提言しましたが、野口英世賞の記念碑除幕式典・記者会見が、長浜ホール・野口英世記念館で開催され、福浦の企業が制作した記念モノコメントに受賞者のお二人が自身の手でネームプレートを取り付ける式典には感動しました。

金沢区以外でも各区で開催された様々な行事を

通じて横浜市民のアフリカに対する関心は大いに高まりましたし、同じ目線で市民が温かくアフリカの国々を迎える姿勢は、各国の大

使館や国家元首たちからも高い評価をいただきました。日韓W杯以来徐々に、市民から盛り上げる国際交流のムーブメントとしての成功体験が蓄積されたと思います。

日本政府からも好評で、一国一校運動の継続も決まりました。アフリカと言えば横浜、野口英世と言えば金沢と、すっかり根付かせて、5年後にはまたぜひ横浜で開催してもらいたいですね。

赤ちゃんとお母さんの居場所づくり

核家族化が進み、地方から横浜に引っ越してくる若い夫婦も増えていきます。赤ちゃんに関する知識を得たり、同じ悩みを抱えるお母さんたちが交流する機会を行政が提供することが求められています。

地域の子育て支援拠点として「とことこ」が見台に、親子のつどいの広場として「おりーぶ」が六浦に「ふきのとう」が町屋に開設されてかわい

賑わっています。

ほかにも区内各地の子育てサロンや「育児サークル」「保育園での園庭解放」などに乳幼児の親子が集まっています。初めて行く時はちょっとびり勇気がいりますが、独りで悩まずにぜひ顔を出してみてください。もちろんお父さんもお母さんは日曜日に子供と遊びに行ってみてください。

限られた予算の中で子

上海へ、ロングビーチへ、海外の現場を見て、話して、感じてきました。



横浜市会議員として、政治家として大切なことはいかにたくさん引き出しを持っているかということです。忙しい合間を縫って4月18日から4日間、5月19日から3日間、横浜と同じような港湾都市であるアメリカ合衆国のロングビーチ市と中国の上海市を視察に行ってきました。

よくと、34年におよぶ市街地カーレースの経験を持つロングビーチ市で、グランプリの裏側や、運営会社と行政とボランティアが一体となって大会を創り上げている様子を視察してきました。

横浜には世界に誇れる年に一度のお祭りやイベントがなかなか育ちません。都市の知名度アップや、市民の一体感が創れるような新たなビッグイベントの可能性を追求します。

育て支援の拠点を考えるには、地域のボランティアや子育て経験のある先輩ママの協力が不可欠です。

また、建設費や家賃負担を税金で賄うよりも、小学校の空き教室をもっと子育て拠点として活用してはどうでしょうか。将来子供が世話になる小学校の様子が見れたり、保健室で予防接種や検診が受けられたり、お年寄りの集う場所にも活用できれば、きつと地域コミュニティの核となるはず

上海では世界第2位のコンテナ貨物の取扱量を誇る巨大港湾施設と横浜との違い、上海万国博覧会を契機とした大規模都市再開発、横浜から上海へ進出した中小企業の厳しい現実を見てきました。

異常ともいえる経済発展のスピードと実態とのギャップ、横浜からの進出企業が人件費や材料費の高騰と、朝令暮改が当たり前の上海政府の経済政策に苦しんでいる様子などは現場でなければ聞けない貴重な情報でした。



これから積極的に様々な現場を見て、話を聞き、報告をして、その経験を横浜市政にどう活かしていくかをみなさんと一緒に考えてまいりたいと思います。

coming soon !!

子育て支援・上海視察・ロングビーチ視察に関しては、さらに詳細なレポートが間もなくホームページにアップされます。写真も満載です。ぜひ読んでみてください。masaru-knet



www.masaru-k.net ホームページ・ブログも、ぜひご覧ください。 www.masaru-k.net

金沢区唯一の新人横浜市議員、黒川まさるに対する期待・要望・激励メッセージなどをお寄せください。

氏名 _____ 連絡先 _____

ご連絡を頂いた方にはご返事させていただきます。(住所・メールアドレス・FAX番号・何でもけっこうです)

返信FAX 786-4310

「ともづな」は、黒川まさるの政務調査活動広報紙です。「ともづな」とは港と舟とを繋ぐロープの結び方で、波が荒れば荒れるほど強く締まっていきます。時代の大きな変化の中で区民の皆さんと黒川まさるをしっかりと繋ぎ、横浜市政に対する姿勢・政策・実情などをレポートしてまいります。

黒川勝事務所 連絡先 TEL 045-781-9580